

## 7. 当院における腎のう胞の治療方針

甘粕 誠, 中津裕臣

(鹿島労災)

単純性腎のう胞患者で背部痛, 顕微鏡的血尿腎盂腎杯変形のあるもの24例に対し超音波ガイド下のう胞穿刺を施行した。うち12例に対し再発予防目的で薬剤注入療法を施行し, 効果判定可能症例7例全例に再発予防効果を認めたが, 2例で合併症を経験した。使用薬剤, その量及び注入時間に関しては今後の検討が必要と思われた。

## 8. 偶然発見された腎腫瘍の6例

枡鏡年清, 川村健二, 中村 剛

日景高志 (東京厚生年金)

偶然発見された腎腫瘍の6例を報告した。発見手段は, 5例が超音波, 1例がCTであった。4例が2cm以下の大きさであった。病理組織では, 3例が癌, 3例がAngiomyolipomaであった。

6例ともにIVPで変化なく, 肉眼的血尿もなかった。超音波診断の有用性が再認識された。

## 9. 中検超音波室で診断された腎疾患

村上信乃, 五十嵐辰男, 富岡 進

阿部功一 (旭中央病院)

浅田 学, 関根智紀

(同. 中検超音波室)

昭和62年度に当院中検超音波室で8589例に超音波検査が行われた。その内1161 (13.5%)の腎嚢胞, 244 (2.8%)の水腎症, 103 (1.2%)の尿路結石や10例の腎細胞

癌が腎疾患として診断された。腎嚢胞は年齢と共にその数と大きさが増加し, 後天性疾患であることを裏付けた。

## 10. 超音波にて, 診断が困難であった腎癌の1例

武田英男, 片海善吾, 北村 温

(国立国府台)

症例は, 尿管結石での精査中に, CT, エコーより腎癌が疑われて当科紹介となった49歳女性。DIP, 選択的右腎動脈では異常所見は見あたらず, CTにて腎腫瘍の診断を得たが, エコーでは腎嚢胞との鑑別困難な嚢胞様変化がみられたので吸引細胞診を行なった。結果は血性class IIであった。右腎摘出術後の結果, 淡明細胞型の腎癌であった。

## 11. クラミジア感染症の疫学

橋爪 壮

(千大・看護学部・病態学)

昨年からはまったSTDサーベイランス報告について, 千葉県の成績を検討し, クラミジア感染症は淋菌様感染症の1.75倍とSTDのなかで最も多い疾患で, 欧米と同じ傾向がみられる。また妊婦調査から妊婦の7~12.5%が感染していると推定される成績をえている。クラミジアのサーベイランス報告では, 女性の占める割合は30%に過ぎない点からみて, 極めて多数の女性の潜在感染がうかがえる。今後, より精度の高い疫学情報をうるためにサーベイランス情報にNGUの報告を入れる必要性があろう。